

題名は？

JJ1SXA 池

次の文章は、ある歌の3番の歌詞です、この歌の題名はわかりますか？

…つくしのきみは みちのおく うみやまとほく へだつとも
そのまごころは へだてなく ひとつにつくせ くにのため・・・

これは、明治半ば以降に、日本で別れの歌として定着した、スコットランド民謡の「オールド・ラング・サイン」を原曲とした、日本の翻訳唱歌、文部省取調掛だった稲垣千穎(ちかい)が詞をつけ、当初「螢」という題名で「小学唱歌集初編」に収められた、あの有名な「螢の光」の歌詞です。

作詞時の曲名は「螢」、のちに「螢の光」となり、漢字制限(当用漢字、常用漢字)により、現在は「螢の光」となっています。

(1 番) 螢の光、窓の雪、書読む月日、重ねつゝ、
何時しか年も、すぎの戸を、開けてぞ今朝は、別れ行く。

ほたるのひかり、まどのゆき、ふみよむつきひ、かさねつゝ、
いつしかとしも、すぎのとを、あけてぞけさは、わかれゆく。

(2 番) 止まるも行くも、限りとて、互いに思う、千萬の、
心の端を、一言に、幸くと許り、歌うなり。

とまるもゆくも、かぎりとて、かたみにおもふ、ちよろづの、
こころのはしを、ひとことに、さきくとばかり、うたふなり。

これに続く3番、4番は内容も調子もがらりと変わっています。

(3 番) 筑紫の極み、陸の奥、海山遠く、隔つとも、
その真心は、隔て無く、一つに尽くせ、國の為。

つくしのきわみ、みちのおく、うみやまとほく、へだつとも、
そのまごころは、へだてなく、ひとつにつくせ、くにのため。

(4 番) 千島の奥も、沖縄も、八洲の内の、護りなり、
至らん國に、勲しく、努めよ我が背、恙無く。

ちしまのおくも、おきなはも、やしまのうちの、まもりなり。
いたらんくには、いさをしく、つとめよわがせ、つゝがなく

4 番の歌詞は、領土拡張等により文部省の手によって何度か改変されている。

(明治初期の案)

千島の奥も 沖縄も 八洲の外の 守りなり

(千島樺太交換条約・琉球処分による領土確定を受けて)

千島の奥も 沖縄も 八洲の内の 守りなり

(日清戦争による台湾割譲)

千島の奥も 台湾も 八洲の内の 守りなり

(日露戦争後)

台湾の果ても 樺太も 八洲の内の 守りなり

現在は「蛍の光」は 2 番までしか歌われないことがほとんどだが、3 番は、遠く離れ離れになっても、それがたとえ境界の地であろうとも、国のために心を一つにして元気にそれぞれの役割を果たそう、というような内容で、4 番は読んだとおり、戦後はこの愛国的(軍国主義、滅私奉公)とも取れる歌詞が敬遠され、また日本固有の領土である千島や沖縄が他国の占領下に置かれたという事情もあり、教育現場への指導などによって歌われなくなっていったものと思われる。(出展:ウイキペディア)

歌詞の冒頭「蛍の光 窓の雪」とは、「蛍雪の功」と言われる、一途に学問に励む事を褒め称える中国の故事・・・東晋の時代の車胤は、家が貧乏で灯す油が買えなかったために蛍の光で、同様に、同じ頃の孫康は、夜には窓の外に積もった雪に反射する月の光で勉強して、この 2 人はその重ねた学問により、長じて朝廷の高官に出世している・・・が由来である。

ちなみに、第 2 次大戦中は、曲が敵性国のものであるという理由で、歌唱が禁止されたそうです、野球用語も全て日本語を使えという恐ろしい時代でした。

蛍の光や窓の雪で勉強をする姿は、塾だ、家庭教師だと恵まれた環境の現代の子供達には、想像するのは難しいかと思いますが、努力すれば、必ず報われるという結果を理解してもらえば良いのかな？

私も高校時代は、受験雑誌「蛍雪時代」を少しは眺めましたが、進路は大きく変わり、今に至りました、高校までの学費無料になどという時代とは大きく異なり、受験料の工面も大変で大学受験もままならなかった貧乏家庭の過去を思い出します。